

NPO、地域が行政に求めていること

この事例集でお話を伺った、NPOや地域活動を実践されている方に、行政に求めていることを聞きました。

NPO法人遠足計画・代表

石原達也さん

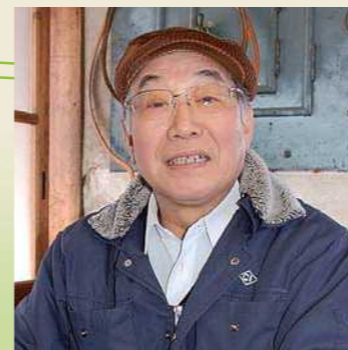
広報に関して、以前は小学校にお願いし、児童へチラシを配ってもらうことができたのですが、近年は小学校が一律に外部の広報物を児童へ配らない方針となり、より多くの子どもたちへ活動の参加を呼び掛けることが難しくなりました。今年度の冒険きちもできる限りのところへ広報し、参加を呼び掛けましたが、後で「もっと早く知っていたらうちの子にも参加させたかったな」と言われた保護者もいました。小学校への広報(学校を通して児童へ情報提供)ができるようになると、助かります。



若桜鉄道「単駅を守る会」・会長

西村昭二さん

現在、駅構内に展示している寝台特急「ブルートレイン」の屋根と、鳥取工業高校の生徒から寄贈されたジオラマを展示できる施設を整備したいと思っています。活動に必要な施設や物品について、行政の支援をお願いしたいと思います。



NPO法人とっとり観光ガイドセンター・理事長

山根奈津子さん

鳥取県の観光に力を入れている様子は、私たちの活動を通じて感じます。さまざまな支援もいただき、助かっています。ただ、鳥取県東部の観光を活性化させるには、今以上のきめ細かな施策が必要です。私たちの行事に、県外から参加される人も多のですが、鳥取砂丘以外、他の観光施設を理解している人は少ないです。砂像さえ知らない人もおられます。PRの仕方に工夫をこらさなければいけません。それから、鳥取駅や鳥取城跡地周辺に観光バスの駐車場が少ない。鳥取駅は鳥取県東部観光の玄関口です。`観光鳥取、にふさわしい、環境整備が必要です。



鳴り石の浜プロジェクト・リーダー

馬野慎一郎さん

それぞれの団体の思いを一つ一つ聞いていくのは大変だと思いますが、それをスムーズにコーディネートする体制があれば良いと思います。事業によっては同じようなことをやっていたり、一緒に連携してやれば良かったと思うものもあります。たくさんの方がもっと気軽にボランティアに参加できる環境づくり、情報提供をお願いしたいです。



NPO法人田舎暮らしの応援団・理事

福井恒美さん

助成金や補助金はとても良いものですが、場当たりの事業に助成してもいいのか、と思うことがあります。助成金があるときは事業をするが、なくなればそれで終わり、というは良くないと思います。助成金があるから事業をするのか、こういうことがしたいという希望があるから助成するのか、コンセプトや将来展望がしっかりしている事業は続けていくべきだし、行政には見極める力が大切だと思います。



NPO法人智頭町森のようちえんまるたんぼう・代表

西村早栄子さん

県、町から支援を受けていますが、3年とかの期限付きで、いつ切られるかという不安が常にあります。地域の地道な活動にも税金が使われてほしいと考えていますので、恒久的な制度を望みます。最終的にはドイツのように国の認可となることを願っています。



NPO、地域が行政に求めていること

NPO法人ハーモニカレッジ・理事長

大堀貴士さん

地域活性化の観点から、私たちの活動に対しても、鳥取県の行政関係者の皆さまには温かく見守っていただいています。ここまで私たちの活動が広がってきたのは鳥取県をはじめ、多くの関係者の支援のおかげと感謝しています。現在はいろいろな面で自立できるよう、多くの方々と力を合わせて活動を充実させていきたいと考えています。鳥取県のアドバイスもいただきながら、ハーモニカレッジを発展させていきたい、と考えています



NPO法人子ども未来ネットワーク・理事長

渡部万里子さん

私たちの中で長年積み上げてきた思いや経験があり、行政とも同じように継続的に共有できる環境があれば良いと思います。組織を維持していくのはなかなか難しいです。そういうNPOは県内にもたくさんあると思います。そういうサポート、NPOが自立していくための支援、何かしら手助けやアドバイス、協力があればいいと思います。



NPO法人本の学校・理事長

永井伸和さん

今なお、上り下りの縦社会の意識を改革するのは官民ともに課題です。それだけに民間と行政をつなぐ「協働、鳥取力」などのキーワードを本物にすることが問われています。県内にとどまらず「地域」から、全国に、世界に向けた広い視野で取り組みたいものです。



NPO法人学生人材バンク・代表理事

中川(旧姓・田中)玄洋さん

- ①NPOの現場に職員が出て、一緒に施策を創っていくようにしてほしい。鳥取県ならではの課題を鳥取県ならではの仕組みで解決していることも多く、またNPOもうまく自分たちの事業を説明できない場合もあります。現場に足を運び、客観的な視点でやりとりし、いいカタチの事業を共につくる姿勢でいてほしいです。
- ②人材育成の視点を持ってほしい。事業成果も重要ですが、施策を通じて誰が成長し地域を担っていくのかを意識したり、何が足りないからうまくできないのか、そこを補うためにどういった人材育成が必要かを考えてほしいです。他地域の事例をそのまま入れても長期的な成功にはならず、NPO人材の層を厚くすることが若手の充実につながり、地域づくりの充実にもつながります。
- ③事業者としてリスクの中でやっています。極端ではありますが、法に触れなければクビが無いのが公務員。閉塞感漂う地域にとって、実はもっともリスクが取りやすい立場だと思います。小さい県だからこそ、つながりや工夫で解決できることが多くなってくると思います。前例のない動きや規制の改革に対して、リスクを恐れずフットワークの軽い動きを期待します。



NPO法人グリーンスポーツ鳥取・代表

ニール・スミスさん

NPOは行政にはない知識とノウハウを持っています。行政はもっとNPOを巻き込んで活用してほしい。NPOも本来の専門性を発揮でき、評価の底上げにつながります。立場は違っても県民の生活の質を高めるといった目的が同じなら、行政も柔軟に対応し、互いに連携することが新しい事業の創造につながります。



NPO法人未来・理事長

岸田寛昭さん

他県にはない鳥取県らしいお金の使い方をしてほしいです。すごい取り組みをされていて鳥取県の将来図にもびったり合う取り組みをしている団体であればどんどん支援していくとか、思い切った取り組みを期待します。鳥取県だからこそ、鳥取県にしかできないという仕組みを作してほしいです。

様々なご意見をいただき、ありがとうございます。
鳥取力創造課は、これからもNPOや地域に寄り添い、皆様の声に応えていきたいと思ひます。